コラム ㊷

中嶋哲夫の「人事も歩けば」

3つの人形浄瑠璃

人形浄瑠璃への関心が強まっています。映画の登場以前の大衆娯楽の花形。江戸時代中期から大正時代頃までのことです。江戸時代には上演禁止にされたこともあります。明治時代には，娘浄瑠璃を追いかけた大学生の「どーする連」が非難を受けたりもしました。素浄瑠璃を唸る女性のエロティシズムに反応したのでしょう。大衆娯楽らしいエネルギーを感じます。

昨年，大阪府，能勢地方の人形浄瑠璃をみました。江戸時代に文楽が伝わり，地域の旦那衆の遊びとして，素浄瑠璃が維持されてきました。そこでは，家元制度ならぬ「オヤジ制」が維持され，芸の伝承が行われます。オヤジは世襲ではなく，しかも経済的利益はまったくない，名誉と技能階梯だけの制度です。地元では，浄瑠璃をやるのが名家。町会議員の半分が浄瑠璃を語ると聞きました。

この浄瑠璃に，世紀の変わり目から人形が付け加わりました。女性も子どもも参加して，旦那衆の遊芸が町おこしの起爆剤になっているようです。町民ホールの名称も「浄瑠璃シアター」。いいですね。

今年は淡路人形座をみました。淡路人形座は，淡路島の南端，福良で毎日５回の公演をしています。文楽よりも古い歴史があるとのこと。昭和30年代までは，芝居小屋の前にむしろを敷き，観衆が楽しんだ写真が残っています。ここで人形遣いの基本動作を教えていただきました。

▲間狂言の人形

「指さす先と目線を一致させて人形を動かす」

たったそれだけのことですが，それができている場合とできていない場合では人形の表現力がまったく異なってきます。人の目を見て話すことの大事さを思い出しました。

最後は山之口人形浄瑠璃。宮崎県の重要無形文化財で，ただひとつ宗教と無関係な文化財。ここには間狂言が残されています。正規の出し物の間に演じられる「方言満載，下ネタ満載」の出し物です。その場の雰囲気が古典芸能鑑賞会から一気に寄席に変わります。テレビだと放送禁止の内容。それを老若男女子どもまで一緒に楽しみ，大いに笑います。参加者の距離感も一気に縮まります。猥雑さのなかに人間のエネルギーがこもっているようです。

（MBO実践支援センター代表）